

地域保健

3

2021

●特集

児童相談所と地域の関わり

—これからの社会的養育推進に生かす保健師の視点



災害後も健やかな人生を送るための避難所づくりの要点がわかる！
避難所運営にかかわる自治体関係者、ボランティア団体、すべての人に役立つ必携本

いのちと健康を守る 避難所づくりを活かす 18の視点

別冊
地域保健

いのちと健康を守る

避難所 づくりを活かす 18の視点

1 ガイドライン
2 トイレ
3 衛生
4 肺炎
5 母子

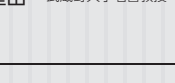
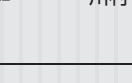
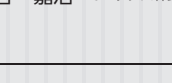
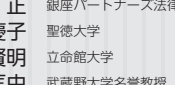
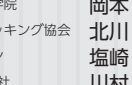
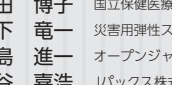
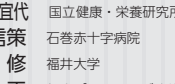
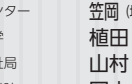
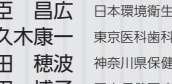
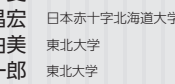
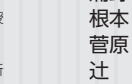
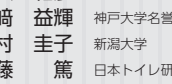
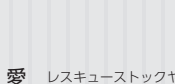
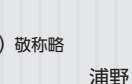
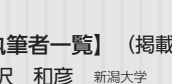
監修 ■新潟大学医歯学系呼吸循環外科
榛沢和彦



6 福祉避難所
7 エコノミークラス症候群
8 弾性ストッキング
9 テント



10 段ボールベッド
11 布団干し
12 寒冷期
13 人間関係
14 食事
15 集約と移動
16 在宅被災者
17 生活再建と法制度
18 海外の避難所



東京法規出版

【執筆者一覧】（掲載順）敬称略

榛沢 和彦	新潟大学	浦野 愛	レスキューストックヤード
室崎 益輝	神戸大学名誉教授	根本 昌宏	日本赤十字北海道大学
田村 圭子	新潟大学	菅原 由美	東北大学
加藤 篤	日本トイレ研究所	辻 一郎	東北大学
中臣 昌広	日本環境衛生センター	笠岡 (岡山) 宣代	国立健康・栄養研究所
中久木康一	東京医科歯科大学	植田 信策	石巻赤十字病院
吉田 穂波	神奈川県保健福祉局	山村 修	福井大学
奥田 博子	国立保健医療科学院	岡本 正	銀座パートナーズ法律事務所
山下 竜一	災害用弾性ストッキング協会	北川 慶子	聖徳大学
草島 進一	オープンジャパン	塩崎 賢明	立命館大学
水谷 嘉浩	Jパックス株式会社	川村 匡由	武蔵野大学名誉教授

好評発売中！

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 ガイドライン | 10 段ボールベッド |
| 2 トイレ | 11 布団干し |
| 3 衛生 | 12 寒冷期 |
| 4 肺炎 | 13 人間関係 |
| 5 母子 | 14 食事 |
| 6 福祉避難所 | 15 集約と移動 |
| 7 エコノミークラス症候群 | 16 在宅被災者 |
| 8 弾性ストッキング | 17 生活再建と法制度 |
| 9 テント | 18 海外の避難所 |

監修：新潟大学医歯学系呼吸循環外科 榛沢和彦

B5判／本文96頁／モノクロ 定価：本体1,500円＋税
ISSN 2424-0826 第49巻 第3号（別冊）

災害の巨大化の中で、
避難所のあり方が厳しく問われている。
本書は、避難環境の改善と、
被災者の自立に向けての
強いメッセージになるに違いない。

神戸大学名誉教授
室崎 益輝先生 推薦

発行元：THS 東京法規出版

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-29-22

TEL：03-5977-0300 FAX：03-5977-0311 <http://www.tkhs.co.jp>



【特集】

6

児童相談所と地域の関わり

—これからの社会的養育推進に生かす保健師の視点

8 【座談会】児童相談所保健師の現場から

- 出席者 ◎稲垣美登利さん（三重県中勢児童相談所および鈴鹿児童相談所）
◎小林幸恵さん（横須賀市児童相談所）
◎杉山眞澄さん（静岡県立大学）＝司会
◎義永直巳さん（京都府宇治児童相談所京田辺支所）

26 知ってほしい！「社会的養育の推進に向けて」

河野真寿美（厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課）

32 都道府県の事例 三重県の取り組み

取材先：西崎水泉さん（三重県子ども・福祉部）

36 中核市の事例 明石市児童相談所「明石こどもセンター」の取り組み

取材先：溝口和子さん 服部陽子さん（明石こどもセンター）

40 特別区の事例 江戸川区児童相談所「はあとポート」の取り組み

吉田靖代（江戸川区児童相談所）

44 市町村の事例「三沢キッズセンターそらいえ」を児童虐待防止の拠点に

田鎖雅子（三沢市福祉部）

48 民間との協働事例から考える特別養子縁組

森崎智恵子（一般社団法人ベアホープ）

54 フランスの途切れない福祉と専門職への信頼形成

安發明子（在パリ通訳・コーディネーター）

② ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ！▶ 利田侑理さん 竹原真梨奈さん（射水市保健センター）

⑦② ピープル▶ 下 茉莉さん（かもみいる 代表）

⑦⑧ レポート▶ 第9回日本公衆衛生看護学会学術集会

⑨⑩ 情報BOX

⑨⑥ 次号予告／奥付

連 載

⑥① 保健師に求められるLGBTQの知識と支援の在り方
《第2回》／日高庸晴

⑥② 保健師のストレスケアに生かすパッチフラワー
《第2回》／八木知美

⑥④ ゲーム障害とスマホ依存—地域保健にできること
《第6回・最終回》／磯村 毅

⑥⑥ ESSAY 国際保健《第42回》／松田正己

⑥⑧ 虐待予防は母子保健から《第12回・最終回》／鷺山拓男

⑥⑧ 保健師のための閑話ケア《第93回》／藤本裕明

⑥⑧ 中臣さんの環境衛生ウォッチング《第78回》／中臣昌広



利田侑理さん 竹原真梨奈さん

とした・ゆり

たけはら・まりな

「私の体験を無駄にしたいくない」
悩みを寄り添い、健康をサポートします！

● 射水市保健センター



射水市のシンボル、海の貴婦人「海王丸」をバックに海王丸パークにて。写真右から利田さん、竹原さん。船内は見学も可能で海洋教室なども開かれている



P 8 【座談会】 児童相談所保健師の現場から



杉山眞澄さん = (司会)



小林幸恵さん



義永直巳さん



稲垣美登利さん

(出席者)
※五十音順

稲垣美登利さん (三重県中勢児童相談所および鈴鹿児童相談所)
小林幸恵さん (横須賀市児童相談所)
杉山眞澄さん (静岡県立大学) = 司会
義永直巳さん (京都府宇治児童相談所京田辺支所)

P26 知ってほしい！「社会的養育の推進に向けて」

◎河野真寿美 (厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課)

P32 都道府県の事例 三重県の取り組み

◎取材先 西崎水泉さん (三重県子ども・福祉部)

P36 中核市の事例 明石市児童相談所「明石こどもセンター」の取り組み

◎取材先 溝口和子さん 服部陽子さん (明石こどもセンター)

P40 特別区の事例 江戸川区児童相談所「はあとポート」の取り組み

◎吉田靖代 (江戸川区児童相談所)

P44 市町村の事例 「三沢キッズセンターそらいえ」を児童虐待防止の拠点に

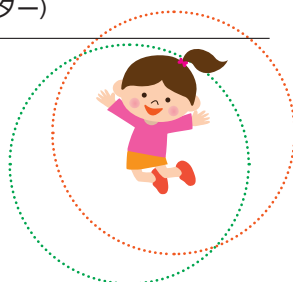
◎田鎖雅子 (三沢市福祉部)

P48 民間との協働事例から考える特別養子縁組

◎森崎智恵子 (一般社団法人ベアホープ)

P54 フランスの途切れない福祉と専門職への信頼形成

◎安發明子 (在パリ通訳・コーディネーター)



児童相談所と地域の関わり

これからの社会的養育推進に生かす保健師の視点



平成 28 年の児童福祉法等の改正を踏まえ、国は「新しい社会的養育ビジョン」を打ち出し児童相談所と地域の連携強化も示された。

児童相談所の保健師必置も進む中、里親や特別養子縁組など社会的養護のもとで暮らす親子への地域の支援体制はどうなっているだろうか。今号では、この社会的養育推進の動きの中で、保健師がどんな役割を担い、その専門性をどのように生かしているか、座談会や取り組み事例とともに伝える。

下茉莉

さん

●かもみいる 代表

人生をかけてぶれずにやっていきたい
就労を切り口にしたコミュニケーション支援

精神保健福祉士と社会福祉士の資格を持つ下茉莉さんは、障害者就労支援センターに勤務する傍ら、平成30年2月に任意団体「かもみいる」を立ち上げた。月1回の茶話会・学習会、不定期のイベントなどを通じ、発達障害当事者や家族、支援者がお互いをより理解し、コミュニケーションがとれる方法を見出すことを目指して活動している。自らも発達障害と発達性トラウマ障害を持ち、ずっと感じてきた社会における生きづらさなども、そこには色深く投影されているようだ。

●取材・文……………白井美樹（ライター）

大学入学2日目で家出
比較文化を学ぶようになる

幼いころから好奇心が非常に旺盛で、学校の授業では、質問するためにずっと手を上げ続けているような子どもだったという。また、少しでもルールを守れない友達がいると、そのことが理解できず注意してしまい、生意気に思われてしまうこともあった。

そんな下さんは、小学生のときから「早

く家を出たい」と考えていたそうだ。

「両親からすぐ愛情を注がれているのは分かっていましたが、ちよつと言うことをきかないと理不尽に怒られるというソフトなDVがある家庭でした。コミュニケーションがなかなか成立せず、憤りや寂しさをずっと感じていましたね」

大学の受験先も親の希望を強く押し出されてきたが、下さんはそれを振り切り、自分の希望する大学への推薦入学を決めた。そして、大学入学2日目に家出をし、奨学

金とアルバイト代だけで、親に頼らずに貧困学生生活を送ったのだという。

選んだ学科は、比較文化学科だ。

「比較するというと、違いを見つけて指摘するというイメージがあるかもしれませんが、実は違いを理解するには、相手のことをよく知らないとできません。批判するのではなく、違いの背景に何があるのか、よく認識する必要があると学ぶことができ、これが今の自分の仕事にもつながっているように思います」

特集

保健師人材育成のいま、そしてこれから
— 平時と健康危機時を見据えて

【第1部】保健師人材育成の現状

●国における保健師現任教育に関する概要

麻生保子（厚生労働省健康局保健指導室）

●都道府県人材育成の事例 高知県

藤原真里（高知県健康政策部）

●市町村人材育成の事例 つくば市

小野村順子（つくば市保健福祉部）

●市町村保健師の人材育成体制の構築支援事業から見えるもの

村嶋幸代（大分県立看護科学大学）

●「都道府県の為の市町村保健師管理者能力育成研修ガイドライン」を用いた研修について

成木弘子（日本赤十字看護大学さいたま看護学部）

【第2部】平時と健康危機時を見据えた人材育成

●平時と健康危機時を見据えた人材育成、私はこう考える（キャリアラダー）

佐伯和子（富山県立大学）

●平時と健康危機時を見据えた人材育成、私はこう考える（統括保健師）

春山早苗（自治医科大学）

●〈座談会〉新人保健師は新型コロナ対策にどう向き合ったか

中板育美さん（武蔵野大学）＝司会、新人保健師たち

【新連載】オンライン市役所だより

保健師とつながろう課

ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ！

渡 光子さん（港区みなと保健所健康推進課）

ピープル

中島 潤さん（認定 NPO 法人 ReBit）

※変更になる場合がございますので、ご了承ください。

地域保健

令和3年 3月号

令和3年3月1日発行／隔月（奇数月）1回1日発行

発行人 菅 国典

制作・発行 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-29-22

株式会社 東京法規出版

振替 00160-1-371595

【購読の申し込み】

TEL 03-5977-0300

FAX 03-5977-0385

ウェブ www.chiikihoken.net

【内容の問い合わせ】

TEL 03-5977-0353 E-mail chiikihoken@tkhs.co.jp

◎表紙・本文デザイン＝新海妙子

◎印刷・製本＝（株）上野印刷所

◎編集長＝須賀健次

◎編集員＝松岡康子

本誌に掲載された著作物の
複写・転載等の許諾権は、
株式会社東京法規出版が保
有しています。

バックナンバー紹介

2019 年 11 月号

特集「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に向けて」

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の全体像とともに、通いの場、国保データベース、フレイルの概念などのトピックを解説。自治体や後期高齢者医療広域連合の好事例も紹介する。座談会では一体的実施における保健師の役割を中心に考える。

2020 年 1 月号

新春座談会「保健師の業務を効果的・効率的に進めるー統括保健師は何をすべきか」

保健師の業務を効果的・効率的に進めるために、行政経営の視点などを参考に、統括保健師の果たすべき役割を考える。

特集「子どもの自殺を防ぐー10代を中心に」

全体の自殺者数が減る中で10代は横ばいもしくは増えている。その実態と対策。

2020 年 3 月号

特集「認知症施策推進大綱で保健師の地域活動はどう変わる？」

共生と予防を車の両輪とする「認知症施策推進大綱」。座談会や事例などを通して、大綱が保健師の役割にどんな影響があるのか読み解いていく。

特別座談会「厚生労働省での学びを地域にー気づき、抱負、今後のビジョン」

全国の自治体から出向や研修派遣で厚生労働省に來ている保健師たちが集い、仕事のやりがいや新しく学んだことなどを自由に語り合う。

2020 年 5 月号

特集「健康経営を地域と企業のコラボレーションで」

健康経営とは従業員の健康管理を経営的な視点から戦略的に実践すること。健康経営の本質を考え、地域・職域連携による健康経営の具体的な姿を探っていく。

2020 年 7 月号

特集「どこからが体罰か」

ー体罰等によらない子育て推進における母子保健の役割

「体罰等によらない子育て推進」ガイドラインの解説、逆境的小児期体験の心身への影響、虐待予防最前線として母子保健に期待される役割などをまとめる。

2020 年 9 月号

特集「コロナ時代の災害支援」

近年多発する地震、豪雨などの自然災害時におけるコロナ対策のあり方についてまとめる。

座談会「コロナ時代の保健活動」

ーウイルスと共存する社会の健康づくり

ソーシャルディスタンスを保つなど、新しい生活様式を定着させる中で、住民の健康を守る保健師の活動を継続する方法などについて話し合う。

2020 年 11 月号

特集「コロナで進化・加速するオンライン&デジタル保健」

コロナ時代にあらゆる分野でオンライン化、デジタル化が推進されつつある。地域保健領域におけるこれらの潮流を概観する。

2021 年 1 月号

特集1「健康危機管理能力を高める」

ー新型コロナ対策を中心に

国の健康危機管理の視点から日本版 CDC や新型インフルエンザ特措法について解説し、地域の健康危機管理について座談会で語り合う。

特集2「コロナ禍とメンタルヘルス」

ーコロナうつを中心に

コロナうつやコロナ不安、自殺者の増加など、コロナ禍に端を発するメンタルヘルスの問題に対して打開策を探る。

お申し込みは

(株) 東京法規出版 地域保健編集部
FAX : 03-5977-0385

※バックナンバーの価格

(2016 年 3 月号まで) 857 円 + 税 + 送料 154 円

(2016 年 5 月号から) 1,370 円 + 税 + 送料 154 円

『地域保健』購読のご案内

●年6回、隔月〔奇数月〕1日発行

●B5判、総100頁（本文96頁、表紙4頁）

●価格 1冊あたり 1,370円+税、送料154円

年間購読 《公費前納および個人》8,137円（税込、送料弊社負担）

年間購読 《公費後納》9,042円（税込、送料弊社負担）

※書店の方は下記にお問い合わせください。

お申し込み

電話 03-5977-0300 FAX 03-5977-0385 ウェブ <http://www.tkhs.co.jp>